

鳥取子ども学園 学園だより

創刊号
平成9年6月1日

○発行
鳥取市立川町5丁目417番地
鳥取子ども学園後援会
電話 (0857)22-4206

○振込口座
郵便振替 01490-9-9106
題字 尾崎悌之助



荒野に水わき砂漠に川も流れん



社会福祉法人鳥取子ども学園
理事長 尾崎良一

社会福祉法人鳥取子ども学園は創設九十一年を迎えた。昨年は創立九十周年を記念して自立援助ホームと地域交流OB会館の二施設を新設した。この学園の九十年を要約すれば、何百人何千人、何万人の多くの人たちに支えられてきた歳月であり、それは鳥取の人たちの愛の歴史である、ということである。

現在は養護、保育、情緒障害短期治療、自立援助、地域交流などの機能を持つ総合子育て支援センター的施設である。今後は福祉、医療、教育の広い領域に展開する更にダイナミックな養護施設、地域子育てケアセンター、地域ボランティア拠点を目指していきたい。今年一九九七年はその新たなスタート元年である。まさに「新しきぶどう酒は新しい革袋へ」(『聖書』マルコ)であり、役員一同、気持ちを一新して初心にかえり、新装なった施設群でその責務を果たしたい。

社会福祉法人である児童福祉施設は、多くの人たちと諸団体などの浄財、そして公的援助である国の措置制度を基盤にして運営されている。従って法人の公的責任は重い。公正に厳正に

運営されなければならない。ガラス張りの透明な運営とは現状の公開、情報の開示である。そのためには理事会、評議員会、監事、職員会など、それぞれの機能を十分に発揮した地域に開かれた法人運営が前提となる。監事監査の充実による法人内部牽制機能の確保、財務諸表等の自主的な開示も必要である。

この「子ども学園だより」発刊の主目的はここにある。一九〇六年(明治三十九年)創設された学園は、すでに当初から「鳥取育児院月報」「鳥城慈善新報」を発刊して運営内容を公表している。「当育児院に於て経営収入として計上されるものは賛助会員諸賢の贖金にして…」(『鳥城慈善新報』第一〇六号)と当時の千人を超える賛助員に感謝しながら収支決算報告を記している。今後この機関紙は年二回発行して、総ての情報を開示し、関係の人たちのご指導ご協力を受けながら、児童福祉のコミュニティづくりの輪を広げていきたい。

鳥取子ども学園は、尾崎信太郎をはじめとする日本キリスト教団鳥取教会の人々によって鳥取孤児院として創設された。創

立の精神はキリストの「愛」である。キリスト教とは一言でいえば「他の人のために祈る行為」であるという。人間は小さく弱いものである。若き者は必ず老い、健やかであっても病む時がくる。生あるものは必ず死ぬ。人はお互いに支え合わねばならない。人と人との温かい絆が求められる。「あなた自身のように、あなたの隣人を愛さなければならぬ」(『聖書』レビ)。この隣人とは自分を除いた他のすべての人間ということである。

「鳥取子ども学園はキリスト教にもとづいて創立された養護施設です。その根本は愛です。私たちは、子ども一人ひとりのありのままを受容し、子ども一人ひとりのかけがえのない命をばくくみ、育てることを使命としています。私たちは、みんなが育ち合うことを理想としています」。鳥取子ども学園は養護方針をこのように明記している。

創設九十一年を迎え第二のスタートの今年、諸施設を有機的に統合連携させながら児童福祉の拠点として、地域に開かれた施設、地域に愛される施設、地域と共にある施設を目指したい。そして、人間としての尊厳と、社会連帯の思想を基本理念に、現在の荒涼たる社会、乾ききった世の中において「荒野に水わき、砂漠に川も流れん」(『聖書』イザヤ)ことを求めて新しい一歩を踏み出したい。

養護施設鳥取こども学園の現状報告

鳥取こども学園長 藤野興一

一、創立九十周年記念事業へのご協力に感謝!

鳥取こども学園は昨年十一月三十日、創立九十周年記念式典を挙行了した。学園の役員をはじめ、お世話になった方々、なつかしい旧職員の皆様、OBの皆様と学園の歩みを振り返り、学園の今後の歩みへの新たな想いを語り、共に祝うことが出来た。

私たちは、一九九一年(平成三)を初



年度とする五年間を「創立九十周年第一次五ヶ年」として、一九九四年(平成六)四月に八十名定員の養護施設を実態に合わせて四十五名定員の養護施設に併設する形で情緒障害児短期治療施設(入所定員三十名、通所定員十五名)を開設、一九九六年(平成八)四月に自立援助ホーム鳥取フレンドの建物設立と当法人への移管、引続き同年十一月、学園OB会館の機能をも兼ねとされた「地域交流ホーム」建設、「九十周年記念史」の編集等ハード面を主軸としながらもソフト面にも及ぶ数々の事業を達成し、その完成を祝って、記念式典を挙行了したのである。ご協力賜った多くの方々に、そして皆様のご恩寵に心より感謝申しあげたい。

二、「子どもの最善の利益」を目指して

「子どもの人権を守る誓い」での養護施設「浮浪児狩」と飢えと寒さから子どもを守ることから出発した戦後の養護施設は、児童福祉法制定から五十年を経て、大きく変容してきた。その対象児童も、戦災

孤児から現在の崩壊家庭の子どもたち、子育ての混乱と教育の荒廃から排出される「非行」「不登校」「虐待」の子どもたち等、その時代の要請に応え続けてきた。石井十次の「無制限無差別收容」の時代から、養護施設は児童福祉施設の中核としての役割を続けてきたのである。

鳥取こども学園は、十年先の二〇〇六年(平成十七)には、創立一〇〇周年を迎える。私たちは、民間基督教社会事業の原点に立ち返り、先輩たちの血のじむ献身性と先駆性を継ぎたいと思う。

一九九四年(平成六)五月二十二日、日本でも国連の「子どもの権利条約」は、二度に渡る世界大戦の反省から子どもたちと共にこれからの歴史を築くべく、権利の主体者としての子ども、子どもは保護され育てられる存在であるばかりではなく、一個の人格として大人と同等の基本的人権を持った権利の行使者であることを明らかに宣言した画期的な条約である。制定以来五十年の節目を迎える児童福祉法も「子どもの権利条約」で言う「子どもの最善の利益」を求めて、一九九八年(平成十)施行に向けて改正されようとしている。私たちは、「子どもの最善の利益」を目指して、「子どもの人権を守る誓い」としての鳥取こども学園」でありたいと思う。

三、引き続きご支援を!

一九九六年度(平成八)の養護施設(定員四十五名)、情短施設(入所定員三十名、通所定員十五名)、自立援助ホーム(定員十二名)保育所(定員一五〇名)の入所状況は以下のとおりである。(表一)

表1 入・通所の状況(平成8年度)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
養護施設	40	39	41	41	40	40	45	45	43	43	43	45	505
入所 情短施設 通所	23	23	22	20	21	22	24	25	28	27	25	25	285
	11	12	11	9	11	11	12	12	12	12	14	14	141
鳥取フレンド	10	11	10	11	11	10	10	11	9	9	9	10	121
保育所	137	140	144	148	146	150	153	152	154	154	153	153	1,784

表2 社会福祉法人鳥取子ども学園が設置運営する施設の現況 (平成9.6.1現在)

施設の名称	施設種別	定員(人)	現員(人)	備 考
鳥取子ども学園	養 護 施 設	45	37	S23.1.1 開設 (M39.1.13)
鳥取子ども学園 希 望 館	情 緒 障 害 児 短 期 治 療 施 設	入所30 通所15	21 9	H6.4.1 開設 H7より分教室設置
鳥取みどり園	保 育 所	150	155	S26.4.1 開設 H9.4.1 子育て支援センター設置 (地域交流ホーム内)
鳥取フレンド	自 立 相 談 援 助 ホ ー ム	12	10	H8.3.27 建物を建設 (中央競馬馬主社会福祉財団補助事業) H8.4.15 開設 (S59.1 創設)
地域交流ホーム	地域交流スペース	-	-	H8.11.20 建物を建設 (日本自転車振興会補助事業)

一九九七年度(平成九)は、養護施設
の職員二十一名(内一名は自立援助ホー
ム専属)、情短施設の職員二十三名、自
立援助ホームの職員を含めて総勢四十四
名の職員(その他のボランティア住み込
み指導員二名、保母一名、派遣教員二名を
加えれば、総勢四十九名)でスタートした。
一九九七年(平成九)五月一日現在の
施設運営状況は以下のとおり。(表2)



OBによる奉仕作業

四、「自立援助ホーム鳥取フレンド」に更なる支援を
養護施設は、かつて義務教育までの施設であった。養護施設から高校へ行く費用が国から出るようになったのは一九七三年(昭和四十八)からのことであり、高校に行けない子どもは施設を出なければならなかった。世間の子どもたちが高校進学率九十五%にも達していた頃、養護施設の子どもたちのほとんどが十五の春に住み込み就職していった。
一九七七年(昭和五十二)三月から鳥取子ども学園では、それら中卒就労児童のアフターケアの行き詰まりから、「十八歳までの養護保障」をにかけて「高校全入運動」を始めた。

そんな一九七八年(昭和五十三)十二月のクリスマス直前に、一歳から学園で育ったK君が二十歳の誕生日に大阪のアパートで自らの命を絶つという悲しい出来事があり、「高校全入運動」の決意を新たにされた。更に、一九八〇年(昭和五十五)二月、小三から学園で育ったSさんが住み込み先に「私のまわりには両手からこぼれ落ちるほどの愛があるのに、親の愛が欲しいのです。親の愛がないと悪魔の子になってしまうのです」という遺書を残して、両親の墓のある裏山で十八歳の命を絶つてしまった。
葬儀に集まったOBと共に、「三度このようなことのないようにしよう」と誓い合い、一九八三年(昭和五十八)「いっそOBの家をつくらう」と、学園の近くに一軒の家を借り、正月明けから三人のOBが共同生活を始めた。鳥取フレンド立川寮の誕生であった。OBたちによる自主管理によって、三年間で十三人が利用し、OBたちの呼びかけで「自立援助ホーム鳥取フレンド準備会」がつくられ、会費やカンパが集められた。一九八七年(昭和六十二)、市内滝山に八LDKの家を借りられることになり、元学園の保母であった山中夫妻が無給で住み込んで「滝山寮」として再出発した。



一九九〇年(平成二)、さらにアパート形式による「弥生寮」を開設し、一九九一年には補助金も百五十五万円になり、やっと十万円の資金が払えるようになった。
一九九六年(平成八)四月、二つの寮を合わせる形で、学園敷地内に十二人定員の「鳥取フレンド」を、新築し、山中夫人を正規の法人職員に迎えることが出来た。
児童福祉法の改正によって、自立援助ホームもやっと制度に載る見通しがつき、厚生省に法制化にふさわしい資金的裏付けを要望してはいるものの、補助金はまだ二百万円程度で苦しい運営に変わりない状態が続きつつである。
自立援助ホームの法制化へのご支援と更なる資金的援助(鳥取子ども学園後援会への加入)を切に願いたい。

情短施設「希望館」



希望館々長 松田章義

時代と社会のニーズに因るため、鳥取こども学園は、一九九四年（平成六）四月、心理療育センター「希望館」を開

設しました。これは、年々増加している不登校など、心理的不適応の子どもと家族等に、教育・医療上の援助を行い、心の健康の回復と自立を図る総合的ケア・センターです。鳥取県では最初の、全国でも十六番目の情緒障害児短期治療施設「児童福祉法」による施設名)です。

開設以来、今年度が四年目。入・通所の多くの子どもたちが自らの力で立ちなおれるよう、福祉・教育・医療の専門スタッフ二十三名が、多職種チームのシステム処遇により、心をこめて「愛情の点滴」をしています。

一、入・通所の状況

対応の形態は、入所、通所、外来相談の三部門に分かれ、対象児の症状や家族

の状況などに即し、必要な援助を行っています。

① 入 所 (宿泊)

定員三十名。一定期間、家族から離れて、学園内のホームで友だちや職員と生活を共にし、近隣の学校、または施設内の希望館分教室に通っています。週末には、家庭に帰ることもできます。

② 通 所

定員十五名。家庭から希望館分教室に通い、友だちと共に学習活動やグループワーク(陶芸、木工、書道、調理、朗読、茶道など)を行っています。

入・通所ともに、希望館分教室での活動に参加した日は「出席扱い」となり、原籍校の出席日数にカウントされることになっています。

③ 外来相談

開設当初から、外来相談部門の充実に留意しています。それは、希望館の機能や人材等を活用し、地域の人びとへ

ケア・サービスすることが社会的使命の一つと受けとめているからで、難しい手続きや費用等は一切不要です。

相談件数は、初年度(平成六)四百六十四件、さらに平成七、八年度は、ともに年間一千二百余件にものほりました。相談内容は、不登校に関することが最も多くて七割を占め、その他、摂食障害、発達障害、行動障害など、多岐にわたっています。

二、施設での治療と教育

施設での治療的援助として、次の三つの方法を用いています。

生活療法

さまざまな生活体験を通じ、自立、協調の力を身に付けるための援助する。

心理療法

セラピストなどと話し合い、心の問題が自ら解決できるような援助する。

家族療法

子どもの問題をより理解し、解決していけるよう、保護者等と話し合います。

これらの治療的援助は、常勤の精神科医師をはじめ、医療の専門スタッフが、近隣の病院や児童相談所等と緊密な連携をとりつつ行っています。

教育上の対応については、入所の子どもは、原則として近隣の修立小学校及び東中学校へ通学しています。また、家庭から通所する子どもは、希望館分教室で学習活動等に参加しています。

三、今後の課題と展望

開設以降、さまざまな試行錯誤を重ねながら四年目を迎えました。

児童福祉法の改正により、措置年齢が二十歳まで延長され、施設内での「義務教育の保障」が明記される方向です。それにとれない、今後の課題として、入・通所の子どもの人数の算定方法の検討、分教室への教員配置の増員、教材・教員費の増額と整備、「心療センター」としての診療行為の検討などがあります。

これらの課題を、多くの関係者の理解と支援者の協力を得ながら解決し、子どもへの「専門的治療・再育成」をめざす情短施設としての役割を、更に確かなものにしたと願っています。

保育所「鳥取みどり園」

保 育 園 は 今

鳥取みどり園長 入 江 一 枝

桜花こぼれんばかりの四月三日。第四十七回入園式を行い、三十三名の新入園児を迎え四月当初より一〇〇%の充足率で、園は活気に満ち、華やいでおります。

朝、七時、母親と一緒に元気よく、

「先生、おはようございます。」と登園してくる園児のかわいい声で一日が始まります。そして九時頃には大部分の子どもたちが登園し母の視診を受けて園庭に駆け出していく。

鉄棒やスベリ台に一生懸命挑戦する子、砂場でままごとあそびをする子など、広い園庭は全園児が、朝日をいっぱい浴びて活気に満ちています。

当園では、「キリスト教精神に基づき、心身ともに健康で豊かな人間性を持った

子供の育成」を目標に保育しています。現在、三歳未満児は、五十七名で、年令別、月令別に四クラスに分かれておりますし、三歳以上児は、九十八名で、三・四・五歳児一歳の異年令クラス編成とし、四クラスあります。

少子化、核家族化等に伴い、平成三年度からこの様な形態をとり保育しており、当園では「たてよこ保育」と呼んでおります。当時は、この保育形態をとっているのは市内で当園だけだったので、今では、鳥取市内の保育園でも異年令クラス編成で保育をしている園も多く、改めて西尾前園長の先

を見る目、決断のたしかさに敬服しております。年々「みどり園の保育（異年令クラス編成）がいい」と当園を希望して下さる保護者も増え、喜んでおります。

乳児保育指定園、老人福祉施設訪問等世代間交流、開所時間延長促進事業等のメニューに今年度より、新たに、子育て



支援センター事業が加まりました。五月から地域交流ホールのふれあいホールで開設しています。五月現在、三十二家庭、四十六名の親子さんが見えられ、楽しく利用していただき、皆さんに喜んでいただいております。利用者は、修立、稲葉山、

岩倉、日進、面影校区が殆どで、一、二歳児が多いようです。児童福祉法が制定されて半世紀、保育園をとりまく状況も社会の変動とともに大きく変わって来ましたが、これからは益々、地域に開かれた保育園として、「みんな

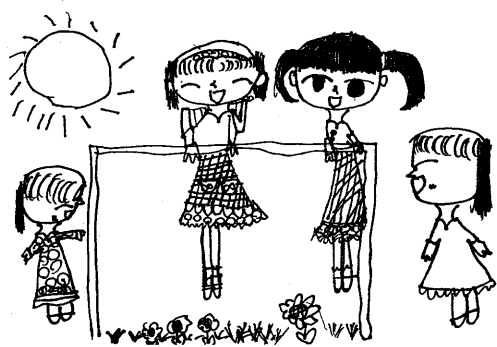
で育てる」を基本理念として、親子共に育ち合う場となるよう、援助していく必要を感じております。

又、昨年に引き続き「鳥取市保育所同和保育推進指定園」で、十月には、全クラス公開保育とテーマに基づく研究発表

を行う予定です。職員みんなで力を合わせて十月に向けて取り組んでいきたいと思っております。

保護者会も、今年度は、私立保育園連合会の会長に、当園の澤会長が就任され、当番園として活動されることになっております。役員チームワークがいいので「みどり園保護者会 ここにあり！」と活躍することを期待しております。

最後になりましたが、これからも職員みんなで、家庭的な雰囲気をもっとに、先輩達が築いてこられた歴史と伝統のあるみどり園を守り、大切にしながら、子ども達のすこやかな育ちを援助し、地域に開かれた園として、地域に愛される園として、一生懸命努めてまいりたいと思っております。



鳥取こども学園創立90周年記念事業

自立援助ホーム・地域交流ホーム建築募金報告 (その2)

1996年11月1日～97年4月30日分。(敬称略)

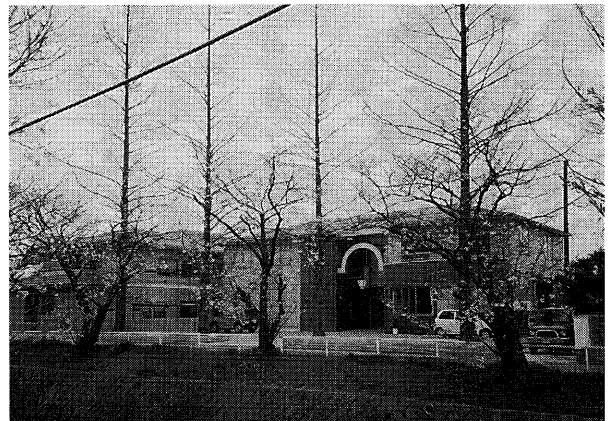
鳥取こども学園創立90周年記念事業への寄付金募集につきまして、多くの皆様より心温まるご援助を賜り、心より感謝申し上げます。

既に、昨年の記念式典の時点で、募金目標額5,000万円に対して、皆様から寄せられました寄付金総額は、1996年1月から10月31日までで、1,869件21,301,747円となったことを報告しましたが、その後も引き続き、多くの方々からご寄付を頂戴し、1997年4月30日までの寄付金総額は、1,952件、34,893,908円となりました。

以下、ご芳名を掲載し、改めて心より感謝申し上げます。

なお、記載もれとか、間違い等がございましたら、ご遠慮なく事務局(鳥取市立川町5-417、鳥取こども学園、TEL0857-22-4206)までお知らせ下さい。

※なお、90周年記念建築募金は終了させていただきますが、後援会への加入・支援につきましては、今後ともよろしくお願い申し上げます。



新装なった地域交流ホーム及び自立援助ホーム

氏 名	氏 名	氏 名	氏 名
相 見 罔 臣	河 口 恵	鳥取みどり園保護者会	早 川 覚
相 見 寿 子	北 島 宏 一	鳥取愛の黙示録上映実行委員会	梅 光 児 童 園
安 達 裕 美 子	喫茶マロン (米谷典剛)	鳥 取 教 会	ひかり幼稚園 (バザー)
生 田 正 明	小 池 銚	鳥取教会オリーブの会	平 山 嘉 一
石 井 衛	小 橋 東 年 子	鳥 取 教 会 睦 会	福 田 実 子
一 丸 藤 太 郎	小 林 典 子	鳥取県建設業協会東部支部	福 永 仁 康
因 伯 子 供 学 園	重 藤 康 信	鳥 取 県 弁 護 士 会	福 美 智 恵 子
海 老 原 光 嵯 子	清 水 雅 彦	鳥 取 市 立 修 立 小 学 校 PTA	富 士 容 子
遠 藤 孝 子	杉 谷 幸 治	鳥 取 信 和 教 会	藤 野 電 機 商 会
遠 藤 三 鈴	鈴 木 健 一	鳥 取 新 生 教 会	布 野 朱 美
大 久 保 幸 子	タ イ コ 一 展 装	鳥 取 友 の 会	ボランティアグループ千宝会
大 杉 眞 人	高 田 弘 美	豊 福 孝 明	堀 川 愛 生 園
太 田 商 店	高 田 晃 治	中 尾 直 昭	松 尾 優
太 田 隆 子	高 橋 伊 佐 夫	中 谷 志 津 子	松 本 淳 子
大 畠 潔	竹 内 功	西 垣 磨 理	水 谷
大 平 千 恵 子	種 谷 俊 一	日本社会福祉を進める中国の会	百 村 佐 智
岡 田 裕 子	田 村 勲	日本電信電話株式会社鳥取支店	安 田 寿 朗
皆 成 学 園 職 員 一 同	第一生命労働組合鳥取県支部	延 原 秀 明	山 白 史 子
影 井 政 春	大協ダイヤモンド会会員御一同様	延 原 昌 子	好 川 つ ね
加 藤 眞 由 美	東 京 育 成 園	八頭中央更生保護婦人会	米 本 美 代 子
鎌 谷 き よ 子	戸 川 隆	花 房 節 男	3 H の 会

「鳥取子ども学園後援会」加入のお願い 1万人の後援会の組織化にご協力下さい

鳥取子ども学園の創立者尾崎信太郎は、公的制度が未だ何も無い時代に、「鳥城慈善新報」という機関紙を発行し、「慈善は恩恵を施すに非ず」「慈善的行為は社会の懺悔的行為である」として、広く「賛助会員」を募り、その会費で「鳥取育児院」の運営資金に当てました。当時、2,000名を超す賛助会員を組織したといえます。

多くの先輩の当時の困難を想い、その事業を引き継いでいる今の私たちは、その精神を受け継ぎたいと思います。民間社会事業の先駆者・献身性の復活が急務です。子どもたちのために本物の事業をなそうとすれば、熱い祈りと有為な人材と多くのお金が必要です。公的な制度と資金だけでは到底足りません。

現在でも、今まで建ててきた建物の借金が5,000万円近くあります。当分の間、毎年500万円以上の借金返済

があります。法人の独自財源の確保は不可欠です。

そこで、下記のとおり、「鳥取子ども学園後援会」の組織化を呼びかけています。一人でも多くの方の賛同・入会をお願いします。

記

- 1 「鳥取子ども学園後援会」へご入会下さい。
- 2 地域、職域で出来るだけ友人・知人に入会を呼びかけて下さい。
- 3 個人でも、団体でも、会社や法人でも加入出来ます。
- 4 年会費は、個人1口3,000円、団体・法人1口10,000円で、1口以上何口でも結構です。

後援会へのご寄付に感謝申し上げます。

平成8年度から今まで、後援会に賛同して戴いた方々は以下のとおりです。心より感謝申し上げ、ご報告申し上げます。

氏名	氏名	氏名	氏名
赤山建築設計事務所	小権林欣一	中嶋哲一	松松倫子
赤山善政男	田藤友代	中嶋愛女	松原雅雅
明穂政裕	齊藤春子	中西裕二	松原好子
浅井慶紀	道祖博隆	西井啓子	松本忠博
雨河一就	坂井晴佐	西尾美智	松本上博
新池榎征夫人	酒巻美佐	西尾工務	松本上木
池井上ユキ江子	坂本美員	錦原村ノ	水本クニツク
井上上子	会委員	戸野野野	美波原
入江亀代子	科学	野野田幸美	美宮宮村
岩倉地区民生児童委員協議会	高槻取和智久	福野田幸美	八森盛八
(株)岩田兼商	高瀧竹田	福田士田	八山山山
岩田顕弘啓	高瀧竹田	福田田	山山山
岩上上吉壙乃	竹田田	福田田	山山山
上上道晶子	田田	福田田	山山山
宇海老益徳弘明	田田	福田田	山山山
奥羽古崎田藤亀	伊伊	福田田	山山山
奥佐賀	伊伊	福田田	山山山
尾加加(有)	鳥取不ば農業協同組合	藤藤藤	山山山
河川川川	鳥取教会婦人会	藤藤藤	山山山
河川川	鳥取教会販売	古古古	山山山
川田本本	鳥取鶏取	古古古	山山山
川本本	鳥取村島山井	古古古	山山山
桔岸田ガ	鳥取土肥	牧政松松松	山山山
北岸田園	鳥取土肥	松松松	山山山
木本部下	中中中	松松松	山山山
熊谷	中中中	松松松	山山山

★平成9年3月17日全国放映★

— 徳光和夫の情報スピリッツで、自立援助ホーム「鳥取フレンド」が紹介される！ —

児童福祉法改正が、国会で審議されることとなったこともあり、自立援助ホームの制度化へのキャンペーンも兼ねて、テレビ東京系列で全国放映されました。

鳥取こども学園OBで、鳥取フレンドのOBでもある、吉田純也君が出演してくれ、随分好評ををくし、反響がありました。全国から激励のお手紙を頂戴し、番組の中で呼びかけていただいた「自立援助ホームへの募金」も、お陰様で八十万円に達しております。

純也君の奥さんも無事退院され親子3人で頑張っています。心より感謝申し上げます。

(テレビ放映による寄付者)

氏 名				氏 名				氏 名				氏 名			
畔 足 穴 綾 荒 安 石 石 伊 伊 井 岩 上 上 戎 及 大 岡	赫 立 井 部 卷 藤 黒 戸 藤 藤 上 崎 杉 野 井 川 神 西 田	敏 仲 篤 明 千 佳 幸 喜 真 芳 結 真 洋 浩 和 雄 和 博 京	子 子 子 美 夏 子 子 正 澄 子 稀 理 子 二 枝 一 子 子	小 景 金 貴 菊 菊 岸 喜 田 清 古 湖 小 齊 酒 島 白 杉 杉	川 山 子 名 池 池 川 宮 ス 賀 沢 川 藤 井 津 石 浦 村	泰 彰 リ つ 安 ト 圭 律 町 女 津 グ ケ イ 庄 雅 智 芙 美 英	弘 樹 子 子 シ 子 子 津 子 グ ケ イ 子 治 敏 章 子 忠 晃 功 子	柘 多 谷 田 東 塚 妻 鶴 冲 冲 中 中 中 南 野 橋 長 長 林	植 田 水 乃 畑 原 本 鹿 見 沢 村 山 治 崎 本 川 川 原	ま さ 子 美 久 子 美 子 子 真 み 行 保 次 子 郎 子 子 子 幸 富	一 良 克 裕 弥 厚 栄 さ 輝 美 吉 美 紳 美 ケ 幸 富	藤 分 堀 卷 正 町 松 松 宮 三 三 持 森 柳 横 横 吉 吉 渡	村 銅 内 田 岡 田 原 本 下 好 三 三 末 田 田 田 田 壁	文 晶 康 雅 千 由 尚 章 工 未 田 田 田 田 登 節	子 子 諭 豊 弘 美 子 子 仁 介 コ こ 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子 子

鳥取こども学園後援会 平成8年度収支決算書

(収入) 自H.8.4.1 至H.9.3.31 (単位：円)

科 目	決算額	摘 要
後 援 会 費	3,626,400	153件
雑 収 入	1,230	預金利息
前期繰越金	3,739,623	フレンドを支える会より引き継ぐ
合 計	7,367,253	

(支出) (単位：円)

科 目	決算額	摘 要
本部会計繰入	3,730,000	建築費助成 217万、長期借入償還金助成 156万
フレンド運営費	50,000	図書代 “自立援助ホームを全国に”
地域交流ホーム運営費	151,972	嘱託手当、光熱水費
雑 費	73,991	OB会経費、他
合 計	4,005,963	

※歳入歳出差引残金 ￥3,361,290—は次年度へ繰越す。

会費・寄付金は下記へ

《鳥取こども学園後援会事務局》

〒680 鳥取市立川町5-417 鳥取こども学園内 TEL (0857) 22-4206・21-9551 FAX 23-0242

《振込み口座名義》社会福祉法人鳥取こども学園

《振込み口座》郵便振替 01490-9-9106

山陰合同銀行鳥取東支店 普通 2124157

鳥取銀行本店 普通 7645611